

ナナオ、 三省、 五日市から、 渋谷へ

南兵衛@鈴木幸一

この12月6日(金)渋谷で、「ナナオサカキ101祭」と題して、集まりをもつことになりました。

ナナオが生きていれば101歳、数字数字にも独特のセンスを持っていたナナオだったら、この年巡りと集いを、なんと名付けたことでしょうか？(笑)

とは言え、ナナオサカキが2008年12月23日に逝ってから16年になろうとしています。既にナナオとその詩作を知らない次世代が多い刻での開催ですが、ナナオの詩作の時代を超えた価値を伝えられる場にと願っています。

今回の開催を、次世代まで届く新しい集いにできるよう、今もナナオの詩をライブの中で朗読する、いとうせいこうさんや、より若いポエトリーに向きあう仲間と相談し、ナナオと同じ「部族」の詩人だった長沢哲夫/ナーガさんにもお声がけしました。

そしてそれはナナオにつらなる屋久島の詩人として知られる山尾三省さんの記憶ともリンクしていきます。三省さんは屋久島へ移住する前、ナナオが住所を置いたあきる野、五日市の山中に住み、その記憶も確かに地域に残っています。今回の発端も、1年前に僕が関わる農業グループの地域の女性から「ナナオサカキ生誕100年」と銘打った呼びかけが巡り、たった数日で実現した暖かい手作りの集まりに、延べで40人ほどが集まるできごとがきっかけでした。そこで若い人たちがナナオの詩に反応してくれる実感もあったのです。

ナナオは放浪の詩人を体現し折々に海外にも呼ばれる人でしたが、一応の住所

は東京の西端のマチにあり、90年代からの芸術祭への出演などで地域の人々に刻まれたその姿が、刻を超えて僕の背中を押してくれました。

ナナオと三省さん達、部族のムーブメントが発したメッセージのある部分は今、SDGsや地域地方を謳う時代の中での常識かもしれません。ですが民主主義や平和が常識になっても、人の長い歴史に問われ続けるように、世代を超えた日々につながり歩き、楽しんでいく僕たちの道ゆきを、ナナオの詩が教えてくれます。

今回の「~101祭」は2025年はじめにも東京の西端、あきる野市五日市の山里でささやかな集まりを開催するつもりです。ナナオサカキ、そして山尾三省さんの詩作と著作にリンクする動きとしてフォローしていただければ嬉しいです。

【ナナオサカキ】

知る人ぞ知る、見えない地球家族の長老

アンドロメダ星雲と Gondwana 大陸を軸に地球を股にかけて歩き回り、愛の種を蒔くココペリ。知る人ぞ知る地球家族の長老、宇宙を放浪するコスモポリタン、今も旅を続ける真性の地球詩人。その詩の朗読は独特の節回しと深い呼吸で響き、聴くものを魅了する。日本のオルタナティブ・カルチャー/草の根派の精神的導師として70年代の諏訪之瀬島、80年代の石垣島白保、90年代の長良川行進等、21世紀へのビジョンを掲げ、精力的国際的かつ草の根的に動き回ってきた。海外にて圧倒的に評価が高く、著書は日本よりアメリカ、チェコ、スウェーデン、中国、スペイン、フランス



などで翻訳出版されている。

ゲイリー・スナイダー、アレン・ギンズバーグなどのアメリカのビートジェネレーションを代表する詩人との交友深く、彼らとは同じ表現者として友情を結ぶ。ゲイリー・スナイダー曰く、「ナナオは日本から現れた最初の真にコスモポリタンな詩人の一人である。だが彼の思想とインスピレーションの源は東洋や西洋よりも古い。そして新しい。~中略~ナナオの作品は本当にユニークである。全くこのような味わいをもつ詩を、私は知らない。情け深く、滑稽で、一見シンプルで、宇宙的で、徹底的に根源的で、自由な詩。」

2002年7月7日新宿ロフトプラスワンでのナナオサカキ ポエトリーリーディング開催時のプロフィール紹介より

~新しい野蛮人の集会と行列~ 【ナナオサカキ 101祭】

2024年12月6日(金)18時 START
渋谷 LOFT 9 ¥3300-

□出演:

長沢哲夫(ナーガ)、いとうせいこう、不破大輔(ex 渋谷知らズ)、アシッドセブン、向坂くじら、GOMESS、SHIBUYA オープンマイク バンドロバート・ハリス、辻信一、谷崎テトラ、TAYLOR MIGNON、CUT SUIKA(toto・ATOM)、なのるなもない、新納新之助、西聖夜、上野ガイ、他

ナナオサカキ 101 祭

080-6503-5814

nanbei@earth-garden.jp